

八事山文庫

-3004号-

特集

三百回御遠忌によせて	p.2
八事の真実・現場の声(後編)	p.6
特別コラム	p.7

八事山・歳時記

能満堂秘仏開扉



毎月十三日は虚空蔵菩薩さまのご縁日です。興正寺能満堂には開山山天瑞照和尚御作の秘仏虚空蔵菩薩立像が祀られています。

毎年三月の五日と十三日に厨子の扉を開き、秘仏に直接参拝してご縁を深めていただくことができます。今年も多くの方の参拝者が、「智慧の御仏」虚空蔵菩薩さまとご縁を結ばれました。

秘仏に参拝できなかった方も、毎月のご縁日に能満堂を参拝し、智慧をいただいでください。



「虚空蔵求聞法」を修めたことで、飛躍的に記憶力が上がり多くのことを学ぶことができました。学習を修めたい方、資格試験に挑戦する方、記憶力を保ちたい方、虚空蔵菩薩さまが見守ってください。(川村)

八事の森をつなく 木霊法恩法要と倒木処理



寺の境内に隣接する興正寺公園は、多種の木々を抱える自然林です。昨年の秋、立て続けに八事を襲った大風に、四本の大木が根元から折れてしまいました。この度、公園を管轄する昭和土木事務所による、大がかりな

倒木処理が行われました。大型作業車が用意され、危険も伴う作業でした。最初に興正寺の僧侶による、長年八事の山を守ってきた木々への感謝と、作業をする人々の安全を祈る「木霊法恩法要」を行いました。四本の大木がともに倒れていたら、周りのお堂にかなりの被害が出るだろうだったので、なんと周囲の若い木々が身を挺して倒木をささ

えており、被害は最小限で済んだという状態でした。三日間に及ぶ倒木処理作業が無事に終了し、少し明るくなった現地には、すでにひこばえが次代の森を創るべく育っており、命に感謝し、命を繋ぐ。次の世代のために私たちにできること...。興正寺は考え、祈り続けていきます。(井上)

行事のご案内

■4月29日(日・祝) 八事の森の春まつり

毎年四月二十九日に開催している「八事の森の春まつり」は、緑豊かな八事の森で、自然とふれあう時間を楽しむ「環境とエコ・森と自然をテーマにした催しです。市民・学生・商店街・行政と連携して行われ、模擬店・音楽祭・フリーマーケットなどを楽しくみながら、模範店・音楽祭・興正寺もこの催しを盛り上げるため、境内を学びながら巡る「親子deお遍路」、僧侶による「絵解き地獄・極楽」、茶室竹翠亭の拝観などを行います。青葉が目まぶしいこの季節、自然を楽しむにきてみてはいかがでしょうか。



●五重塔特別開扉と奉納写経 10時より

年に一度、八事の森の春まつりに合わせて国重要文化財に指定されている「興正寺五重塔」の特別開扉を行います。五重塔にまつわる解説を聞いた後、普段は開かない扉の中に入り、初層にお祀りしてある五尊の如来像に直接参拝いただくことができます。この五尊の如来は、四月五日の結縁灌頂でご縁を結ぶ仏さまでもあり、結縁灌頂に参加なさった方には、ぜひご参拝いただきたい機会でもあります。



◎五重塔特別開扉 拝観料 三百円(冊子付) 奉納写経 一千円(二年間五重塔内に奉安します)

●親子deお遍路プチ体験

10時〜16時(最終受付15時)
興正寺の境内をめぐるお遍路体験！興正寺の境内をめぐるならお寺のお参りの仕方やお遍路とはどんなものなのかを親子で楽しく学べるワークショップです！対象年齢3歳以上

★特別体験★ お遍路さんの格好をして写真を撮ろう！ (スマホ・カメラをご持参ください)



毎月第1土曜・第2金曜・第3木曜

お坊さんダイレクト

一仏事の疑問に僧侶がホッペで答える
新スタイル相談会

4月7日(土)・13日(金)・19日(木)
各日10時〜15時 完全予約制(各回50分ずつ)

墓じまい・仏壇じまいの疑問、永代供養・葬儀のご相談などお気軽にお問い合わせください。
★予約申込 公式ホームページまたは電話にて

■5月5日(土・祝) 大般若経転読祈禱会

10時〜11時30分 西山本堂にて
大般若経とは、全六百巻におよぶありがたい経典です。「転読」という特別な読み方にて、願とケガレを吹きはらう「梵唄」を起し、皆さまの願いが御仏に届くよう、僧侶は声枯れるまでできる限りの力を振り絞り祈願いたします。また、特別なお席をご用意し、お一人さま毎にご僧侶よりお加持をさせていただく「厄除仏石加持祈禱」も受付けております。

厄除仏石加持祈禱料 三千元

■5月8日(火)〜11日(金)

春の宝物展

「興正寺の歴史を紐解く」

10時〜16時 ※最終入館15時半
本年は興正寺開山天瑞照和尚の三百回忌にあたり、多くの弟子を持ち、広く興正寺の教えを説いた和尚は、その一方で多くの仏像を残しています。僧侶としてだけでなく、仏師としての顔も持つ天瑞和尚とはいかなる人物であったのか。春の宝物展で、その実像に迫ります。春の宝物展では、和尚が創建した興正寺の歴史を寺に伝わる文物でご紹介します。興正寺大書院にて 拝観料 五百円(呈茶付)

興正寺開山和尚Ⅲ天瑞圓照三百回御遠忌

興正寺開山天瑞圓照和尚に寄せて

天瑞圓照和尚の足跡をたどる (4)

豊田 正純

貞享三年（一六八六）四月、天瑞圓照大和尚（以下和尚という）は、高野山より尾張へ来た。熱田に親族の是庵居士がいたため、居士が管理していた八事山中にある黄髪宗の草庵に住むことになった。やがて、和尚の徳（戒律を一般の人に授けていた）が世に知れわたると、尾張徳川家二代藩主・徳川光友公の耳にもその名声は届き、仏法の教えを乞うた。

和尚は、かねてからの志により、光友公に戒律を守る寺院建立の願いを出して、これを許され、「八事山遍照院興正律寺」の寺号を賜った。

開山には弘法大師を勧請し、和尚は中興開山となった。東山を遍照院、西山を普門院と称し、殺生、山林竹木の伐採、女人往来などを禁止して、戒律を守る修行道場とした。また、尾張における最初の八宗兼学の寺院であったことから、各宗の僧が和尚について学問を受けた。

和尚は伽藍建立とともに仏教書も整備している。興正寺が所蔵している書籍や文書群を「八事文庫」と称しているが、和尚の書写本や蔵書印のある書籍は、歴代住職のうち最も多い。東山部では全体の三分の一、西山部では四分の一を占め、総計八百冊を超えている。

またある時、和尚は横尾山の明忍律師の墓塔銘を孫弟子から依頼された。その大字が評判となり、それ以来諸方から、和尚の文字を求める人が多くなった。特に、「南無阿弥陀仏」の六字名号は、鎮火や病氣平癒に靈驗があるとして、板木に彫って数多く刷り配られた。禪、律、密教、浄土の八宗兼学を究めた和尚は、享保四年（一七一九）三月十四日、六十六歳で亡くなった。本年は三百回忌となる。

カレンダー連動企画 (4)

【第四回】八事の地へ（平成30年4月カレンダーより）

神鳳寺から高野山真別所に移り学びを進めた天瑞和尚は、真言律宗の寺院建立を志すようになる。

貞享三年（一六八六）年、寺院建立に相応しい地を求めて伊勢国皇大神宮に参籠し、満願の暁のお告げで尾張国へ向かい、熱田の親族是庵居士（古渡村八文字屋八衛門）を頼りとして八事の地にたどり着いた。

山中を歩く中で自然石の尊像に出会い、ここに草庵を結ぶことを決め、修行を重ねた。ひとり

はじめに――

平成三〇年は、興正寺開山天瑞圓照和尚の三百回忌です。各地を歴訪する中で真言律宗の寺院建立を志し、縁あってこの八事の地に「八事山遍照院興正律寺」を創建した和尚は、いかなる人物であったのか。寺に伝わる文物からそれを紐解き、一年にわたりご紹介いたします。また、今年の興正寺カレンダーでも同内容を掲載しておりますので、ご覧いただければ幸いです。

修行する若い僧の噂が広まり、山中にもかかわらず、天瑞和尚の元へしだいに人々が訪れるようになっていった。

和尚が出会った自然石の尊像は、「石大黒尊・石詞利帝神」として厨子に納められ、今に伝えられている。

大黒天は、もともとインドでは破壊を意味する暗黒の神であったが、仏教に取り入れられ、密教では胎藏曼荼羅の最外院北方に属し、三面六臂で忿怒の黒色形相をもつとされる大自在天の

化身、又は眷属として仏・法・僧の三宝を守護し、戦闘をつかさどる神となった。また、詞利帝母（鬼子母神）は、インドでは生産の神として信仰されていたが、日本では主として、安産、保育の神として信仰され、ときに盜難よけの神ともされている。

破壊と生産、相反する力を持つ神を祀ることで、天瑞和尚は尾張の地に新たに切り開いていく仏法の道を守護する礎としたのではないだろうか。

（川村）



襖絵「開山天瑞圓照和尚一代記 修行の間」



石大黒尊 石詞利帝神

平成30年興正寺カレンダー

開山和尚三百回忌記念の特別なカレンダーです。當山の年中行事もご案内しております。納経所・各窓口で数量限定で無料配布しております。この機会に是非ご覧くださいませ。



新 杜のコラム

笑顔だけでも絶やさない心をもつとは――

「人間の顔には、およそ五十本もの筋肉の線があり、それらの伸縮によつて顔の表情を作る。」

偶然目にした化粧品店の広告にそうあった。更に、

「笑顔の表情を作るのに十三本の筋肉の線が、逆に怒る顔では四十七本の線が活動する」と。

つまり、我々が怒る時は、心だけでなく表情にまで多くの緊張とストレスを与えているという。

一方、笑顔の表情では化粧ものりやすい。怒った顔ではたとえ高級な化粧品であつても綺麗にのせることは難しい。そこで決めゼリフ。

「どんな化粧品でも敵わないのが、あなたの笑顔です。」

馬鹿にはできない。仏教の教理にも通ずるものがあるからだ。

「和顔施」という、常に明るく朗らかな表情で以つて人に接せよ、という教えだ。

顔は人間のレッテルである。いくら美人であつても、どこか棘のある顔

では人から愛されない。優しく温かい表情でいるほうが、周りに与える影響も大ききろう。

以前、新聞の投書にこうあつた。脳に障害があつて寝たきりになった女性がいる。家族の問いかけに何も反応しない。しかし、甥っ子たちが笑いながらおどけている時だけ、同じように微笑むのだそう。彼女の病状からして、甥っ子たちの行動を理解しているとは考えられないのに。

表情が周りに与える影響は大きい。最近では「笑う治療法」などが医療でも取り入れられ、がん細胞の治療に成功した例もある。

世情は決して明るいとはいえない。しかし、笑顔だけでも絶やさない心でありたい。



（泰澄）

興正寺さんぽへ 出かけましょう！

興正寺の境内をご案内♪
八事山女庫を持って、興正寺を歩いてみませんか？
いつもと違った発見があるかもしれません！

興正寺さんぽ① 総門～平成大仏さまへ

ここ、八事山興正寺は江戸初期から三百年以上の歴史を刻むお寺です。

総門から、と題しましたが、現在門がありません。（図①）興正寺の総門は、次なる時代へ生まれ変わるために現在取り外されており、これから新しくなる予定です。参道を行くと正面には中門（図②）があり、昔は「女人門」と言って、かつては興正寺東山を「修行の場」として



大仏様が垣間見える、喜待つ中門

女人禁制にして分けていました。明治時代になって禁制は解かれたので、この場に移築されました。修復の時、伊勢神宮式年遷宮で放出された材木を使っ

た、という記録もあるそうです。一礼して門をくぐると眼前には興正寺のシンボル五重塔と、その前に平成大仏さまがいらっしゃいます。平成大仏さまは、この混沌の時代の平和と皆さまの幸福を祈って平成26年に建造され、正式には「釈迦

牟尼大仏」と申します。高さ約7メートル、重さ約7トン、文字通り皆さまの力で、引っ張ってここへ運ばれました。ここは仮の場で、いずれ新しいお堂に奉安される予定なんですよ。

次号は、さらに大仏さまについてご紹介します。（井上）



興正寺のように時代に沿った変化を遂げながら、
七宝も時を経てもたくさんの人から愛されるものに。

株式会社 安藤七宝店

あん どう しげよし

代表取締役・会長 安藤 重良 さん

創業明治13年。日本を代表する尾張七宝の宮内庁御用達の老舗の会長として、後継者の育成や新しい七宝の提案などしながら、尾張七宝を含め全国の伝統産業品の魅力を伝え広げる活動も行っている。



人と街とお寺をつなぐ場所 八事山文庫 地域版

七冠を達成した棋士らが国民栄誉賞を受賞したニュースが記憶に新しいことだろう。その記念品として書道の道具一式が贈られた。その中に七冠にちなんで七宝焼の鶴が施された硯箱があり、それを制作したのは尾張七宝の老舗、安藤七宝店だ。宮内庁御用達でもある同店の作品は皇居にも多数贈られており、興正寺にも普照殿の入口に安藤七宝店で制作された素晴らしい七宝焼の壺がある。今回は、その安藤七宝店の安藤会長にお話を伺った。



安藤会長と興正寺とのご縁は、終戦直後まで遡る。「うちのお墓のあったお寺が戦争で焼けてしまい、お墓が東山の平和公園に集められることになったのですが、祖父はその場所が気に入らず祖母の縁を頼りに、興正寺へお墓を移すことができたか、お願ひに行ったのがきっかけだったそうです。快く受け入れてくださった興正寺へお墓を移し、現在までお付き合いが続いているというわけです。」と、安藤会長。物心ついた頃からお墓参りで興正寺を訪れ、歴代の住職とも懇意にされ、興正寺で法要を行うだけでなく、安藤七宝店の創立百周年の時には大書院に社員全員で集まってお茶会を開くなど、現在までの長い間、興正寺との付き合いを重ねてきた。

法要や企業行事だけではなく、「今から十年ほど前に、当時の梅村住職から相談を受けたんです。昔からお寺というものは文化発祥の場所だから、興正寺でも何か発信したい。年の瀬に行われている第九をお寺で行うというのはどうだろうか？」私は、セントラル愛知交響

楽団の理事長もしており、団員にそのことを相談しました。そして、合唱団の指導者を紹介され「面白そうだからやりましょう」という運びになり、興正寺での第九イベントがスタートしたんです。」と、安藤会長。寒い時期で野外の開催のため、室内で開催される第九のように簡単に上手くはいかず、試行錯誤を重ねながら続けてきたという。「雪が降った時は、エスカレーター前の屋根のある所で演奏したこともありましたが、五重塔に白い雪が積もる中での第九は、本当に美しかったですよ。」と笑顔で安藤会長は語った。

「日本には二百五十ほどの経済産業省が認めた様々な伝統産業品の産地があるわけですが、生活様式の変化などに合わせて製品を変化させ隆盛になっているものもあれば、時代の変化を受け入れられずに衰退していくものもあります。お寺も同じように文化ですから、全員が全員一〇〇%の満足はないかもしれないけれど、時代と共に変化していく部分もないと守っていけないと思うんです。私たちの扱う七宝も現代の生活様式に合わせて変化させながら、伝統産業品として使い続けてもらえるようにと考えています。」と語る安藤会長だった。一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会の代表理事も務め、尾張七宝だけでなく日本の伝統産業品について幅広い知識を持たれる安藤会長。今年も興正寺で開かれる【さくらカレッジ】では、去年に引き続き安藤会長を講師に迎え、伝統産業品の時代に合わせた変化などについて現物も交えてお話ししたい。安藤会長の快活な人柄がにじみ出る、楽しい講義となるに違いない。



名古屋と東京に店舗を持ち、老舗メーカーとして尾張七宝をけん引している。



店内には、お皿だけでなくアクセサリーや文具など様々な七宝が並ぶ。見るだけでも楽しくなる店内。



季節ごとの可愛い七宝ピンバッヂ。時代に合った七宝の新製品も誕生している。

お坊さんダイレクト出張版

仏事のお悩み相談室

仏事の疑問に僧侶がホンネで答える「お坊さんダイレクト」の出張版！皆様のひととお悩み相談に、僧侶が答えたいします。



ひふみちゃん

Q 「家に古いお仏壇があります。引っ越しで持っていけないのですがどうしたらいいですか？」

A まず、新しい家では新しい仏壇を持つのか、持たないのかはどうなさいますか？古い仏壇（外側の箱）自体は処分するとして、なかに祀りされている御本尊（仏さま）と御位牌（ご先祖さま）はどうなさいますか？新しい家で拝めるサイズの仏壇を新たに用意し、今までの仏像、位牌をお祀りするのか、それとも仏像、位牌も新しくするのか、それとも仏壇だけでなく、仏像・位牌すべてを手放してしまうのか。
単に厄介だから処分するのではなく、ご先祖さまの信仰を正しくし、継承する機会と受け止めて「決断」ください。
仏壇を動かす際には、中にお祀りされている御本尊と御位牌の精進を、再度お祀りする場合には精進をします。精入れ・精進のお祈りは依頼したければ出張にて伺います。仏壇の処分などもご相談ください。



釈田僧侶

お気軽に「仏事のお悩み相談室」をお寄せください。仏壇じまい・お墓じまい・法事の事...僧侶が答えたいします。お葬事に必要事項を明記の上、左記宛先までお送りください。

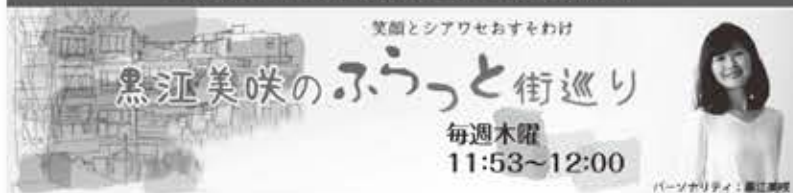
【必要事項（お葬儀に記入ください）】

- ・お名前（お葬不可の場合は、ペンネームも一緒にお書きください）
- ・年齢
- ・性別
- ・ご住所
- ・お電話番号

【お葬儀の宛先】

〒466-10825
愛知県名古屋市中区八事本町7-8
八事山 興正寺 普照殿内
八事山文庫「仏事のお悩み相談室」係

「もっと地元を好きになってほしい」という想いから生まれた
八事山興正寺の提供のラジオ番組です



知ってるお店が登場するかも?! @FM80.7

3月1日 放送 真宗庵八事店
昭和区広路町石坂36 TEL: 052-831-2488
9:30~18:30 定休日: 火曜日(年末年始・ゴールデンウィーク・お盆は営業)
地元の素材・名古屋コーチンの卵を使用したお菓子を多数取り揃えています。ご進物にと頂いたのをきっかけに、ファンになるお客さまもいらつしやうとか。濃厚な卵のコクを感じられるシュウクリームはお子さま・学生にも人気。

3月8日 放送 二代目英吉家(ひでよしや)
昭和区八事本町101-2 TEL: 052-832-1771
11:00~24:00 定休日: なし
とんこつ醤油ベースの横浜家系ラーメン店。麺の固さ・味の濃さ・油の量を選んでカスタマイズできます。自分好みの1杯が見つかるはず! ライスが無料なので、がっつり食べたい方におすすめ。イケメンスタッフに心も満腹。

3月15日 放送 Book Cafe Co-Necco(こねっこ)
昭和区山手通五丁目32番地月東ビル1階 TEL: 052-842-9137
9:30~18:00 定休日: 日曜日
赤い看板が目印のブックカフェ。店内の書籍は図書館のように貸出しもしています。日替わりランチは数量限定で、リピーターも多いそう。窓際のギャラリースペースには作家さんのハンドメイドアイテムが並びます。

3月22日 放送 やごとのだんご屋さん
天白区八事山101 八事霊園駐車場前 TEL: 052-838-5005
平日/9:00~15:00 土日祝/9:00~17:00 定休日: 木曜日
季節によって内容が変わるだんごやさんセットが大人気! インスタ映えるカラフルなおだんごは、見た目だけではなく味も絶品。中には北海道からいらつしやる方も。和モダンな店内にはかわいい雑貨も豊富で、女性におすすめ。

3月29日 放送 麺屋まるきゅう
昭和区八事本町101-2 北原ビル1F TEL: なし
月~金/11:00~23:00 土/11:00~16:00 定休日: 日曜日
近隣学生の強い味方! サークルや部活に所属していると特典ありのラーメン店。気分に合わせて、こってりもさっぱりも選べるのが嬉しい。ヘアゴムの貸出しもあり、女性も気兼ねなく入れるお店です。

こちらからもお聞きいただけます <http://fma.co.jp/f/prg/machimeguri/>



八事のお山の

昨日

今日

あした

うつむくように今様色に咲くヒマラヤ桜

いよいよ八事のお山は春を迎えました。この季節のお勧めは「春を感じる道」です。八事山は西山と東山に分かれた広い自然の中なので、どちらへ行くにも坂道、階段は否めません。仏さまに会うためとは言え、シンドイと感じることもあろうでしょう。でも、たまには周りを眺めながらゆっくり登るのはいかがでしょうか。観音さまにお目にかかりに、光明殿南側にある長い坂道を、ゆったり登るのも良いですし、(いつでも使えるように杖が置いてありますよ)観音堂を頂上に見上げながら登る石段

も風情があります。登り口で皆さんを香りで迎えるジンチョウゲ、ヤマボウシやキンモクセイの輝きだした緑を楽しまししょう。モミジの若木のつややかな緑は、秋とは別な美しさです。階段脇の観音石仏を一つずつ拝みながら登っていくと、桜とは違う春を感じられるはず。お寺で一番大きな五輪塔や、お祝いの花と呼ばれる銀梅花、ユスラウメや紫式部やタマリユウの濃い緑。さあ、春を感じにいつもより、ちよつとゆつたりした気分です。一步を踏み出してみましょうか。(井上)

「じもポン(地元応援クーポン)」が使える加盟店さんをご紹介します!

第1回 地元応援クーポン
じもポン
を使ってみよう!



外はカリッ中はトロップのたこ焼き6個入り(400円)・駄菓子(100円分)

じもポン(地元応援クーポンの愛称)とは八事・秋中・堀釜口エリアの提携店舗で利用できる興正寺発行の地域振興券です。(本券は、興正寺のさまざまな行事等で差し替えております。)

準人池にあるたこ焼き屋「もりたこ」さん。アツアツ焼きたてのたこやきが自慢です。靴を脱いで上がるイートインスペースがあり、小さいお子さま連れでも安心。近所の方の憩いの場にもなっています。じもポン1枚(500円分)で大満足♪ぜひ足を運んでみてください!(河村)

秋中商店街 準人池 もりたこ

名古屋市昭和区準人池4-1 TEL: 052-680-8616
営業時間/11:00~20:00 定休日/月曜日

お知らせ 掲示板

甘味・食事処 八琴庵

4月 季節のそば

桜海老おろし蕎麦

5・13・21日限定



色鮮やかなバラ揚げ桜海老を散らし、辛味大根を添えました。冷たいおつゆをかけた、ぶっかけ蕎麦です。旬の食材を使った春を感じる1杯、ぜひご賞味下さい。

4月定休日: 4/10(火)、5月定休日: 5/8(火)
営業時間: 10:00~16:00 (L.O.15:30)
定休日: 毎月5日を過ぎた火曜日

こころの時代と僧侶の役割

100年先を描く八事論壇

その開創の歴史より学問修行寺の伝統を受け継ぐ、興正寺の興正寺による興正寺のための論壇です。私たちは常に先を見据えて考え続けます。

NHKの長寿番組で「こころの時代」というものがある。一九八二年テレビではじまり、一九九〇年よりラジオでもスタートしている。ちょうど、バブル時代の始まりと終わりを予感させるタイミングであった。穿った見方かもしれないが、このタイトルの裏側には「このままでは古き良き、こころある時代が失われてしまう」といった危機意識があったのではないだろうか。バブルに狂騒し、迷走し、破壊へと突き進む「こころのない時代」。そういったものの砂を噛むような、空を掴むような抵抗こそが「こころの時代」というタイトルのネーミングだったのかもしれない。番組のラインナップをざっと見ていくと、宗教者、文学者や医療従事者が交代で登場し、ご自身の足跡や経験から得られた深い智慧を披露される。聞き手のガイドも重要で、落ち着いた声、敬意を決して失わない態度で、番組全体のトーンを落着いた、高尚なものにしている。番組のターゲットとしては、知的な年配層を想定し

ていると思われる。「世間はどんどん間違った方向に進んでいく。しかし本当に大事にすべきは、こころの世界。先人の英知を、尊い実践者、正統な後継者に登場いただき、静かに耳を傾けようではないか。」という

さらに今は二十一世紀になってしまっている。「こころの時代」という言葉がはじめて生み出されてから三十年以上が経っているのだ。この言葉に付与された意味を再考し、今一度、現代において「こころの時代」とは何かを問い直さねばならないところに立っている、と言えよう。

が成熟してきたということは評価せねばならない。そしてその前提で、さらに零れ落ちるものとして浮かび上がってくるのが件の凶悪犯罪である。そこには社会の歪み、人の心の闇といったものが溢れている。たとえば若者、女性、子供の貧困。ブラック企業。社会的マイノリティへの差別。マスコミによる情報操作。また、食品汚染によるアレルギーの心身への悪影響。教育格差、人種差別による社会保障問題。ネグレクト、等々。いつでも爆発を起こしてしまいそう

で、高みの見物で、さも自分は高尚な存在だ、なんて思っておられる方がいたとしたら、きっとその人は前述の問題に真剣に向き合ったことのない方だろう。今の「こころの時代」に向き合うためには、僧侶ということとを一度捨てて、ひとりの人間として、いかに苦しい状況が世の中に生み出されているのかを直視して、真摯に謙虚に向かい合っていかなければ話にならない。

八事山興正寺 寺院経営総合研究所

ますだ えいしん
梶田英伸

1995年、京都・佛教大学卒。京都・法然院、鎌倉・長谷寺など東西に巡錫した後、2012年、こころ興正寺に。創建来の「学問寺の伝統」を体現する碩学として、各種講座や法話・絵解き・座禅指導等、教化布教の中心を担う。著作に『絵本極楽』（風濤社・2009年刊）ほか。



な火種は無数にある。それらにどれだけ耐え続けて生きねばならないのか？そういった想いの若者がどれだけいるのか。今は「誰かのこころの苦しみの上に誰かの豊かさが成り立っている、偏ったこころの時代」なのだ。それを肝に銘じなければならぬ。

●編集部注：本論稿は昨年『高野山時報』新春号の為に寄稿されたもの。然し、同誌記者から「高野山と興正寺は裁判係争中であり何れにも肩入れしない」との丁寧な連絡を戴きました。高野山が株主にも関わらず、その公平中立な姿勢には好感を覚えます。

たスタンスが垣間見える。一瞥して、とてもすばらしい番組と言えよう。ただ、少し引つかかるのは、これは一種のアジール(避難所)むしろ、仏教的に「サラナ」と呼ぶうちに過ぎないのではないかと、ということだ。本当に今考えるべき問題に向きあっている、というよりは、「居心地のいい逃げ場」になってしまっているのではないか？ということだ。

てるんだらう」といった感想を持たれる方も多いかもしれない。しかし殺人事件の件数の推移はゆるやかに減少傾向であり、またマナーについて「今時の若い者は、ではなく、俺たちの若い頃の方が礼儀もなにもなっていないかった」と仰られる年配の方もある。戦後の混乱期における犯罪の増加から、社会が豊かに平和になり、教育も行き渡って社会全体

東久世通禧いけ花歌碑



△東久世通禧いけばな歌碑

石碑でめぐる

歴史浪漫

其の

十二

厳しい冬を越えて新芽がふくらみはじめた木々を撫でゆく風がやわらかくなる頃、あちらこちらで盛んに花展が開催されはじめます。一足先に春を楽しまうというものから、春爛漫、あでやかに咲き競う花々で埋め尽くされるようなものまで、四季のある日本に在る幸せを感じる時でもあります。

興正寺境内には華道に縁のある石碑がいくつかあります。が、今回は「池坊」にまつわる歌碑をご紹介します。

池坊は、「室町時代後期、池坊専応が確立した華道で、いけばなの根源であり、池坊の歴史は日本のいけばなの歴史そのもの」とされている

華道の流派で、伝統の様式から現代様式まで、3つのスタイルが確立されています。

これは、明治時代の名古屋で池坊華道の師匠として多くの門弟を指導した服部無窮の顕彰碑で、明治四十一年、門下生により寿碑として建立されたものです。

表面には、次のような歌が刻まれています。

長江翁碑

よつの時

ながめたえせぬ

いけ花は

ひとのいのちの

くすりなりけり

東久世通禧

(川村)

「四季それぞれに見るのが絶えないいけ花は、人の命の薬である」という生花礼賛のこの句は、当時、明治天皇の和歌の師であった三条西季知卿に師事し、御歌所派歌人の大御所であった東久世通禧によるもので、裏面には無窮の履歴が記されています。

大日堂前広場の脇に外へと続く道があり、その横に十基以上の石碑が並んでいます。その中ほど、大日堂側に近いところにこの歌碑があります。花展を楽しむとともに、名古屋で活躍した華人を偲び、碑を訪ねてみてはいかがでしょうか。

お茶がおしえてくれた しあわせ

竹翠だより

卒業茶会

中京大学の茶道部は歴史のある茶道部で、何十年も前から興正寺の茶室や施設で稽古に励み、代々継承してきたそうです。

毎年、梅のほろびが春を告げる頃に催される「卒業茶会」は、文字どおり四年間の部活動の集大成となる晴れの茶会です。日頃の練習風景を垣間見ることができ、協力し合って準備を進める様子、大変真面目にお稽古を積み、皆で高め合っている様子、先輩から後輩へ確かな中京大学茶道部精神が受け継がれている様子がうかがえます。実は、部員の皆さんには興正寺が催す茶会のお手伝いをお願いしており、際の力として水屋を支えてもらっています。四年間のうちには、礼儀作法も身につけ、段取りや協調性が養われていきます。若い人たちの学びと成長は目を覚ますものがあり、この卒業茶会には、それらも楽しみにお席に入らせていただきます。

今年も、ご両親や先生、先輩方への感謝の気持ちが丁寧な所作や

言葉遣いに表れ、お点前にお運びに積極的に取り組む生き生きとした姿に大変すがすがしい印象を受けました。とっておきの趣向を生かすのも、心のこもったお点前や立ち居振る舞いがあつてこそだと思います。練習に練習を重ねたことで、席中の話に遊ぶ言葉のひらきとつづが前夜に頭の中を巡ったことでしょうか、着物の着付けも自分で挑戦していました。

お席のクワイマックス、お釜に水をさす段に時間が止まりました。お茶をいただいた分を釜へ返す水は、学生時代の充実した学びを納め、希望に満ちた新たな一歩となり溢れ、でもそれは本当に名残惜しくて愛おしいような水の流れて、そんな三つの思いを重ねて、静かな水音に耳を澄ませました。ご卒業、本当におめでとう。

(竹翠)

想耕茶会(野点こぼれ桜茶会)

日時 4月11日(水)
10時30分・12時・14時
場所 茶室 竹翠亭
茶券 一〇〇〇円
一席20名(要予約)

五重塔特別開扉

案内サポーター募集

条件 十八歳以上の男女で、4月に実施する事前研修に参加できること

申込み 来寺または電話
(052-832-2801)

担当 文化事業課 川村

4月29日、国重要文化財に指定されている「興正寺五重塔」の特別開扉が行われます。拝観者の方の案内をしてくださるサポーターを募集いたします。

今月の興正寺サン

緑区在住 小野さん親子



二年前に亡くなった旦那様に会いに、興正寺へ月一三回娘さんと一緒に足を運んでいるという。興正寺を知ったのは、旦那様が生前「うちには娘ばかりだから、迷惑でいたくない。」

かけないように色々準備しておこう。」と、夫婦で話し合い、興正寺の納骨堂を見学されたのがきっかけだったそう。お母様と二緒に興正寺を訪れている娘さんも、交通の便が良く、大きな道路沿いであるにもかかわらず、境内は緑に溢れ、静かで落ちついていて、お母様がお気に入りだ。興正寺のファンだそう。これからお墓参りのついでに、四季折々の興正寺を楽しん

千種区在住 仲良しファミリー



娘さん夫婦と一緒に訪れていたお母様は、近所の人に興正寺を教えてもらって、四十年以上も興正寺に通われており、月に一度は必ずお参りに訪れ、七月参りのだと感じた。

にも何度も参加されているという。この日は、娘さん夫婦と一緒だったが、お孫さんやひ孫さんも一緒にみんなでお参りに訪れることもよくあるのだそう。「孫やひ孫達も、境内を走りまわるのが楽しいみたいで、喜んで来ますよ。」と、嬉しそうに話してくれた。

八事今昔物語り

そこにお寺のある暮らし 8

やはり今年は冬が長かったですね。ようやく春到来です。勘違いしやすいですが、旧暦だけでは本来の「季節」からズレています。(三年に一度は閏月もあつて、一年が十三ヶ月になりますから、今の感覚で言うとおおよそ暑い八月が二ヶ月間もあるとかになっちゃうわけで)それを補正するのが季節感を言葉にしてくれる二十四節気になるのです。お寺には「厄年なのでお祝いを」という要望がたくさん来ますが、説明の時によく付け足すのは、厄年が一月一日に始まり、十二月三十一日で終わるのではないですよ。

と言うことです。もともとは旧暦で生まれた考え方ですから、十二月三十一日で「厄年」が終わっても安心できません。前厄や後厄という考え方もありますし、運気は混んでいる坂道の上下りのようなもの。いろいろなことに影響されるのです。厄とともに暦で気にされるのが「六曜」です。結婚式は大安で、お葬式は友引を避けて、など未だに大切にされますね。車を買ったらそれまで最先端の技術説明をしていた営業マンさんがいきなり「納車は大安吉日に」と言われてびっくり。それだけまだ暦が生きているのだな、と感じた

ことがあります。お寺では、葬儀はやはり「友引」を避けて動きますしね。大切なものは、人は一人では生きられず、必ず他者に影響したりされたりするのだ、という事です。たとえば「厄除祈禱」に込められているのは、自らの身を清めて幸運を呼び、家族や周囲の人たち皆と一緒に幸せになりましょう、という祈りです。お互いさまでと他者を気遣い、お陰さまでと周囲からいただく幸いに謙虚に感謝する。お寺は日々の生活の中で、人は常にひとりでは無いことに気付いていただける、絶好の場所なのです。(井上)

こよみよみ

四月・卯月
卯の花が咲く「卯の花月」、
田植えをする「種月」

四月四日 清明
花が咲き空が青く澄み渡り、万物が清らかに
生き生きとする

四月二十日 穀雨
地上にある穀物に、天からの恵みである
雨がしつとりと降り注ぐ。

4月

◆ 智慧授け祈禱と行儀作法講座 ◆

十三参りの日

平成30年4月21日(土)/4月29日(日・祝)

所用時間 2時間30分～3時間

対象 平成18年生まれの男女
※満年齢でも受付いたします

祈禱料 5千円

プログラム 午前の部 10:00～/午後の部 14:00～

プログラム	午前の部	午後の部
受付開始	9:30	13:30
法話・行儀作法講座	10:00	14:00
祈念の書 ※	10:45	14:45
智慧授け祈禱 ※	11:00	15:00



※「祈念の書」「智慧授け祈禱」は、お申し込み状況により、30分程度の待ち時間がございます。その間、興正寺境内での写真撮影などをお楽しみください。

「祈念の書」について

色紙に書をしたため、虚空蔵菩薩さまにお供えいたします。事前にお好きな漢字一文字を決めてお越しください。なお、色紙は智慧授け祈禱後に僧侶が裏書をして授けいたします。



1月度 修養会実施報告

日程	1月20日(土) 10:00~14:00
場所	光明殿2階 大ホール
参加者	22名
内容	・三宝への供養 ・祈り(読経) ・法話 「戒めについて」 「成道会・節分・星祭について」 ・食事作法(昼食) ・瞑想
布施	33,500円
支出	24,800円

<参加者アンケート> 回答者数:18名

◎一日修養会の感想

すごく良い:13名(割合:72%)

良い:5名(割合:28%)

◎一日修養会で楽しみにしている内容(複数回答可)

僧侶の法話:18名(100%)

瞑想:6名(33%)

その他:1名(6%)



【供養の時間】
三宝への供養をしていただきます。
本来は都度お布施をしますが、修養会では支具料の一部を供養(布施)といたしました。名前を記した紙を御宝前に奉納し、供養していただきました。

【祈りの時間】
簡単なお経を、僧侶と一緒に背を揃えてお唱えいたします。
般若心経のほか、「南無仏、南無法、南無僧」を繰り返してお唱えしました。

【僧侶より法話】
「仏教の戒めについて」と「興正寺の法会について」の二つの法話をいたしました。「戒め」は「聖徳太子・十七条憲法について」「法会」は「成道会・節分・星祭」とは何かを僧侶の視点よりお話いたしました。

【瞑想の時間】
ゆったりと体を動かしながら、だんだんリラックスしていただき、心を深く落ち着けます。静けさの中で、僧侶が「戒め」について語りかけ、心の奥底へと「戒め」を染みわたらせします。聖徳太子の御心をしみじみと味わい、ご自身の「戒め」としていただきました。(桐田)

ウポーサタ瞑想 一日修養会つづり

「ウポーサタ瞑想一日修養会とは」
仏教徒としての反省と瞑想の会「布薩会(ウポーサタ)」の現代風アレンジです。お釈迦さまの定めた「戒め」について学び、瞑想をおこなって「戒め」を振り返り、日常の暮らしに活かしていただきます。仏・法・僧の三宝を供養し、お経も一緒に唱えます。参加を希望される方は、下記の次回案内をご覧ください。

さんぼうこう 三宝講とは

「三宝講」は仏教を学ぶだけでなく、より積極的に暮らしのなかに仏教を取り入れ、仏教によって生き方を高めていただくことを願って命名いたしました。仏教のルールによって自己点検を行う機会が「布薩(ウポーサタ)」。
一日修養会の機会ごとに皆さん自身の心の振り返り「布薩」をしていただければ、と思っております。

入講特典

講員証と記念品として
ご自身で作る腕輪念珠
をお渡しいたします。



▲講員証 申請用はイメージです

▲腕輪念珠

平成大改修志納 ご芳名

《金壹千円》 神宮司 好子
自 平成三十年 一月三十一日
至 平成三十年 二月十一日
(順不同敬称略)
ありがとうございます。
心より感謝申し上げます。合掌
八事山興正寺

興正寺のまなびの講座紹介

―遊翠の心・写経―



写経とは、字のごとくお経を写すことです。写経の歴史は古く、奈良時代のころには行われていたという記録が残っております。現在では、修行の一環として、または御供養、御祈願などの目的で写経が行われています。

「遊翠の心 写経講座」では般若心経というお経を写経いたします。初心者の方でも安心して参加できるよう、講座の初めに写経の意義について僧侶から説明いたします。その後、姿勢を整え簡単な瞑想を行い、心を落ち着けた状態で写経を始めます。写経中は我を忘れ、ただ只管にお経の「文字」「文字」を写すことだけに集中して頂きます。

当講座の魅力は、竹翠亭というお茶室の中で写経が出来ることです。日常を離れ、非日常の中で行う写経は、時を忘れ心豊かな一時を味わうことが出来ます。一文字一文字、丁寧に自分の心に出会い、一文字一文字に仏さまの智慧を感じていきましょう。(海良)

次回開催の日程 4月10日(火)

- ◆場所/竹翠亭
- ◆時間/①10時~12時
②14時~16時(要予約)
- ◆支具料/1,500円(茶代付)
- ◆持ち物/特になし
- ◆定員/12名

ウポーサタ瞑想 一日修養会

5月のご案内

日時

5月19日(土) 10時~14時(受付は9時30分より)

支具料(二名)

・一般2,000円

・三宝講(修養会会員)1,500円

※三宝講へは別途お申込手続きが必要です。

※支具料は申込時に先納めとなります。当日お納めいただけません。ご了承ください。

申込締切

平成30年5月16日(水) 17時(完全予約制)

※お申込の無い方はご参加いただけません。

申込窓口

光明殿 永代供養受付

※お電話・公式ホームページからはお申込いただけません。

定員

60名

5月の法会

花まつり・夏安居・不動堂大祭について
戒め・梵網経・七仏略戒経について

法会

8月4日、11月24日

次回の日程



編集後記

寒い冬を超え、ようやく春めいてまいりました。これを書いている頃は、桜の蕾のころかを今か今かと待ちわびている今日この頃です。4月を迎えると、鳥のさえずりも明らかに響き、ひかひかのランドセルを背負った子供たちの姿にもなんとなく心が愉しくなりますね。皆さまは、どんなことに春の訪れを感じられるのでしょうか。身近な「春」を見つけに、ぜひ興正寺にも訪れてみてくださいね。

興正寺行事カレンダー

4月

普門園拝観(竹翠亭利用)時間 10:00~16:00
休園日(休業日) 1日(日)・2日(月)・6日(金)・7日(土)・8日(日)・9日(月)・
14日(土)・15日(日)・16日(月)・18日(水)・28日(土)・30日(月・祝)

月	火	水	木	金	土	日
26 大安	27 赤口	28 先勝	29 友引	30 先負	31 仏滅	1 大安 ◎十五世祥月 ★さくらカレッジ 10:00 予約優先
2 赤口	3 先勝 ★永代供養受付定休日	4 友引 ▽遊翠の心 きもの装い 初級10:00 中級13:00 竹翠亭 要予約 支具料 2,000円	5 先負 清明 ◎大随求明王 縁日 露店アリ 10:00 干支成満巡り ◎結縁灌頂(胎蔵界) 9:00 西山本堂 大随求明王	6 仏滅	7 大安 ▽御詠歌入門講座 14:00 光明殿 鈴木智弘	8 赤口 ◎大日堂華曼茶羅会 理通分経祈禱 12:30 大日堂 大日如来
9 先勝	10 友引 ▽遊翠の心 写経 10:00 14:00 竹翠亭 要予約 支具料 1,500円 西山海良 ▽阿息観 14:00 普照殿 杉浦宣秀 ★八琴庵定休日 ★永代供養受付定休日	11 先負 ★想耕茶会 10:30/12:00 14:00 竹翠亭 要予約 一席 1,000円	12 仏滅 戌の日 ◎安産合同祈禱会 14:00 本堂 ▽遊翠の心 茶の古典を読む 10:00 竹翠亭 要予約 支具料 1,500円 樹田英伸	13 大安 ◎虚空蔵菩薩 縁日 露店アリ 10:00 干支成満巡り ★ゆらゆらヘアストレッチ 10:00/11:30 普照殿 虚空蔵菩薩	14 赤口	15 先勝 ◎東山 奥之院縁日 13:00 奥之院 善之綱おくり 阿弥陀如来
16 先負	17 仏滅 ★永代供養受付定休日	18 大安 ◎観世音菩薩縁日 13:00 観音堂 護摩祈禱/法話 ▽仏典読み解き講座 10:00 普照殿 樹田英伸 観世音菩薩	19 赤口	20 先勝 穀雨 ▽阿息観 14:00 奥の院 杉浦宣秀	21 友引 ★TERA-YOGA 10:00 普照殿 要予約 ◎十三参りの日 10:00/14:00 予約優先 ◎弘法大師縁日 10:30 弘法堂 読経/法話 ▽写経写仏講座 11:30 光明殿 ◎月並御影供 14:00 西山本堂 弘法大師 興正寺マルシェ	22 先負 ◎十七世祥月 ▽御詠歌入門講座 14:00 光明殿 鈴木智弘
23 仏滅 ◎四世祥月 ▽遊翠の心 日々折々の書 10:00 竹翠亭 要予約 支具料 2,000円	24 大安 戌の日 ◎地藏菩薩縁日 13:00 能満堂 大数珠おくり/紙芝居 ◎安産合同祈禱会 14:00 本堂 ▽遊翠の心 阿息観 10:00/14:00 竹翠亭 要予約 支具料 1,500円 西山海良 ★永代供養受付定休日 地藏菩薩	25 赤口	26 先勝 ▽遊翠の心 茶の席 10:00/14:00 竹翠亭 要予約 ▽仏教入門講座 14:00 普照殿 森田泰澄	27 友引 ▽遊翠の心 水墨画 14:00 竹翠亭 要予約	28 先負 ◎不動明王縁日 14:00 不動護摩堂 護摩祈禱/法話 不動明王	29 仏滅 昭和の日 ◎十三参りの日 10:00/14:00 予約優先 ★八事の森の春祭り ★五重塔特別開扉
30 大安 振替休日 ▽阿息観 14:00 奥の院 杉浦宣秀	1 赤口	2 先勝	3 友引	4 先負	5 仏滅	6 大安

※阿字観(杉浦宣弘師)/御詠歌上級講座(鈴木隆弘師)/御詠歌初級講座(鈴木智弘師)の開講日程については、担当僧侶に直接お問い合わせください。(電話問合せ不可)



ご法事
お墓
永代供養
お葬式

— 仏事の疑問に僧侶がホンネで答える新スタイル相談会 — 毎月 第1土曜・第2金曜・第3木曜 開催

お坊さんダイレクト

ご予約

興正寺公式ホームページより
<http://www.koushoji.or.jp>
電話(10時~17時)
052-832-2801

墓じまいのご相談が増えています。宗旨宗派に関わらずお気軽にご予約ください!